

パブリックコメントの実施結果について

- 1 計画等の名称 第2次薩摩川内市総合計画後期基本計画（素案）
- 2 実施期間 令和元年10月15日（火）～11月15日（金）
- 3 意見者数 1名
- 4 意見等の内容 裏面のとおり

●パブリックコメントとは・・・

1 目的

行政運営上の公正の確保と透明性の向上を図り、開かれた市政を推進することを目的に、主な計画や指針を立案する過程において、案の段階で広く市民の皆様から意見を募集し、寄せられた意見を参考に計画等の決定を行い、併せて市の考え方も公表する制度

2 公表資料の閲覧場所

本庁1階情報公開コーナー・各支所地域振興課・各地区コミュニティセンター、中央図書館・中央公民館・市ホームページ・意見募集の担当課

## ■パブリックコメントにおける意見等の内容

番号	意見等の内容
1	<p>景観形成について            良好な景観形成は単に公園などを整備すれば良いのではなく、生活圏において、例えばジョギングや散歩をしたくなる街区があるかどうかです。いったい、薩摩川内市にそういった空間があるかと言うと見当たりません。街並みや街路樹、また文化施設などが一体となり導線自体に魅力がある事が必要であるのに、当市においては施設があまりにも分散しております。市役所周辺、新田神社周辺、国分寺跡周辺、それらを繋ぐ道路の景観はとても散策する気にならない貧相なものです。            本来なら川内川と隈之城川が合流する地点にある中越パルプを川内港か港町工業団地に誘致し、跡地に歴史資料館や文学館などと市民ホールを移転・新築し、開戸橋周辺の河川敷公園や散策路を整備すべきです。そうする事で向田から宮内及び新田神社にかけての一体となった市民の憩いの場が生まれ、同時に観光スポットとしても魅力が何倍にもなると思われます。            古老のお話では、昔は新田神社の参道は川内川と繋がっており、太平橋の船着き場との間を屋形船が結んで舟遊びが出来たと。もし現代にそうした情景が復活するなら京都の嵐山にも似た観光スポットになるでしょう。一方、中越パルプさんにとっても大型トラックで狭い市中の道路を走る危険も輸送コストも軽減されるわけですから有益です。移転には数十億という巨費が掛かると思われますが、薩摩川内市は歳入が潤沢ですから援助するべきでしょう。            景観において魅力的な街は、日本や海外を問わず、何処も観光スポットを結ぶ魅力的な散策路があります。ところが、そうしたグラウンドでサインを描かず場当たりに開発・整備をしてきた結果が今の殺伐とした当市の景観であり、「川内は観光地のお薦めが無いよね…」という市民の意識にも反映されてしまっていると思います。            今回、川内駅東口にコンベンションセンターを建設しますが、私にはこれは点の発想でしかなく「人々の賑わいを創出する」どころか、一層の分散化・閑散化を招くと思われます。            高度成長期の開発パターンを踏襲したまま「いろいろやっければそのうち繋がって全体が良くなるだろう」という発想では、もはや改善はされません。これからの人口減少期においては「コンパクトシティ」発想がどうしても必要です。景観で成功している各都市のノウハウを学ぶべきでしょう。</p>
2	<p>一次産業の振興が言われていますが、農地の集約・集積が進まない事には、なかなか振興は難しいと思います。県に農地中間管理機構があり集約・集積事業を行っておられますが、土地所有者の登録・把握が進まず、結果耕作放棄地は増える一方です。ここでも、集約・集積に成功した事例を示し、強力に啓発する必要があります。            また、杉やヒノキ等の山林についても小規模地主が多く、これらの集約・集積も進めなければなりません。また竹林の利用についての扱いが、先端産業の育成項目に一言入っているだけでは小さすぎると思います。当市においても、農林地の集約・集積を専門的に行う部署もしくは法人を立ち上げるべきだと思います。</p>
3	<p>「災害に強い防災基盤の整備」ですが、昨今の日本全国を襲う激甚災害はこれまでの想定を上回るものであり、抜本的な国土強靱化が求められています。薩摩川内市においても、100年に一度というような大災害にも対応できる施策が求められていると思います。現在行われている堤防かさ上げなどの河川改修は国が策定した基準内での言わば消極的整備であり、ランドデザインと言うにはお粗末なものと言わざるを得ません。根本的には古来「麓」と呼ばれる高台の住宅地ではなく、高度成長期から現在まで続く低湿地や氾濫原、また急斜面や谷筋を造成しての街造りに災害の原因があると考えます。また、近年では大規模太陽光発電施設の設置による森林破壊・保水力の低下も、災害のリスクを高めています。            私は市街地を流れる川内川の堤防は川と街を隔てる通常の堤防ではなく、堤防そのものの上に街を造るいわゆる「スーパー堤防」にするべきであると考えます。そして無制限な宅地造成や太陽光発電所設置に防災の視点から規制を掛けるべきです。</p>